

令和7年度総合型選抜（総合Ⅰ/Ⅱ） グループワーク課題ならびに出題の意図

グループワークでは、複数名の他者と取り組む協働作業における発言や行動をとおして、筆記試験や個人面接では評価が難しい、「チームの中でのコミュニケーション力や建設的な議論への貢献」、「目的の実現に向けたチームでの合意形成への貢献」等を評価している。なお、本学は理工系大学であるため、活動の最終的な目的は、科学技術やエンジニア的な視点から設定している。今回、令和7年度選抜で出題した課題のうちの2つを公表する。

（課題1）労働生産人口の減少

- ▷ 国立社会保障・人口問題研究所が令和5年に発表した「日本の将来推計人口」によると、2056年には、日本の人口が1億人を下回ると予想され、労働生産人口も大きく減少します。今回は、労働生産人口の減少によってさまざまな分野で発生すると考えられる課題をできるだけ多く挙げてもらいます。その後、それらを分類し、整理してもらいます。
- ▷ このグループワークは、労働生産人口減少による課題について考えることをとおして、労働生産人口の減少に対してテクノロジーが解決できることを考えるためのブレインストーミングです。
- ▷ 労働生産人口の減少による課題に関して分類・整理した結果、気がついたことなどを報告してもらいます。

※労働生産人口…国内の生産活動の核となる人口をあらわし、年齢が15～64歳の人々を指す。

（出題の意図）

少子高齢化の進行により、日本の生産年齢人口は1995年をピークに減少しており、近年になって、労働力不足や経済規模の縮小、国際競争力の低下といった影響が出始めていることが指摘され始めている。

労働人口の高齢化や人口減少など社会の未来に直結する問題に工学や情報工学はどのような貢献ができるのかということを、参加者が柔軟な発想を交わしながら議論を深めてもらいたいとの意図で出題した。

共有及び分類を通して、具体的にどんな問題が起こるのか、どのような業種・業界で影響が大きいのか等といった、特徴を考えることをとおして、現状考慮されていない機能やサービスの提供を実現する新たなテクノロジーや社会構築につながるような、グループの中でのまとめ、およびグループ活動ならではの気づきを期待し、その際、それらに繋げるスキル・態度、工学的意識をもつことを評価している。

(課題2) こどもたちの体験

- ▷ こどもたちの成長において、様々な「体験」が大きな影響をあたえる可能性があると言われて
います。ここで言う「体験」とは、こどもたちが学校外（家庭や地域社会）で実体験する自然
体験、運動体験、社会的体験、文化的体験、家族的体験、教育体験などの経験を指します。こ
どもたちに多様な「体験」の機会を提供するために、地域社会や行政だけでなく企業や大学等
も様々な取り組みをおこなっています。その一方でおかれた環境によっては体験する機会や
種類に差があります。今回は、こどもたちの「体験」について、思いつくものをできるだけ多
く挙げてもらいます。その後、それらを分類し、整理してもらいます。
- ▷ このグループワークは、こどもたちが「体験」する様々なことがらについて考えることをとお
して、「体験」の機会の差を埋めるために、貢献できる今までにないテクノロジーやそれらに
関連する方策を考えるためのブレインストーミングです。
- ▷ こどもたちの「体験」について分類・整理した結果、気がついたことなどを報告してもらいま
す。

(出題の意図)

こどもたちの成長や人格形成、キャリアへの意識は、学校での学び以外にも地域や家庭といった学校
外での体験の影響も大きい。このような体験は地域や環境によりその機会や種類に差があることが知ら
れている。また今回の受験生となっている世代は、コロナ禍等の影響により、学校内の体験がそれ以前
に比べて少ないため、より学校外での体験が、成長等への与える影響が大きい可能性が指摘されている。

そこで、体験の機会や種類の差を埋めるために、参加者が工学や情報工学の観点からソフト及びハー
ドの両面での議論を深めてもらいたい意図で出題した。

また、グループ活動の中で、こどもの頃の体験を共有することで、それらの意義や効果を考えたうえ
で、テクノロジーにつながるような、グループの中でのまとめ、およびグループ活動ならではの気づき
を期待し、その際、それらに繋げるスキル・態度、工学的意識をもつことを評価している。